北の経営者たち

[DATA BANK]

合同会社
ファインサポート
札幌市白石区中央1条2丁目
TEL&FAX.011-813-8816
設立年月日／2014月2月17日
●元気な体づくりを支援し、運動、社会的な交流、リフレッシュ、カフェなどのサービスを提供する「生活機能向上デイサービスたいむ」。午前・午後それぞれ定員10名。

■サービス名と事業所名
事業所番号　0170509657
通所介護　介護予防通所介護
生活機能向上
デイサービス たいむ
札幌市豊平区月寒東2条5丁目2番1号
地下鉄東豊線 月寒中央駅 徒歩5分
TEL.011-826-6411
FAX.011-826-6419
営業開始日・指定・許可日／2014月4月1日

■事業所の利用可能時間
（2単位制）
平　日／ 9:00～12:05
13:15～16:20
定休日／土曜日・日曜日・祝日
年末年始

■従業者保有資格
・介護支援専門員
・社会福祉士
・作業療法士
・介護職員初任者研修

様々なトレーニングマシンも完備

筋トレの後は、リフレッシュ、レクリエーション、カフェなどお楽しみの時間のはじまり。食をテーマにしたレクリエーションでは職員と利用者全員でクリスマスケーキやサンドイッチ、ピザづくりなどが行われることも。

生活機能向上デイサービスたいむ
管理者
社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員
合同会社ファインサポート
Shibata Yuka
代表 **柴田 由香**さん

●昭和47年稚内市生まれ。稚内高校、藤女子大学卒。2014年2月㈲ファインサポート設立。同年4月生活機能向上デイサービスたいむ営業開始。

北の経営者に聞く●●●●●●札幌市

介護予防に役立つトレーニングとレクリエーション、そして思いやりの心で、高齢者の元気を最大限に引き出したい。

思考に気をつけなさい、
それはいつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい、
それはいつか行動になるから。
行動に気をつけなさい、
それはいつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい、
それはいつか性格になるから。
性格に気をつけなさい、
それはいつか運命になるから。
―マザー・テレサ―

稚内市に生まれ東小・東中学校、稚内高校を卒業した柴田さん。父は元地方公務員。稚内市教育委員会教育長をはじめ様々な要職に就いていましたが、福祉事務所長であったことが、その後の柴田さんの運命を決定づけました。また、進学先に道内で古くから女子高等教育の伝統を誇る、カトリック系の藤女子大を選択したことも偶然ではなかったのかも。同大学の使命は「愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成」。隣人愛と自由、平等などキリスト教的世界観が柴田さんを福祉の道へ誘いました。

大学卒業後、柴田さんはそのまま札幌で就職し、流通会社の社長秘書になりました。そんな彼女が社会福祉に興味を持ち始めたのは、当時、稚内市福祉事務所の所長だった父が札幌で開かれたボランティア大会に出席するため来札した時でした。道案内を兼ね会場まで同行したところ「ぼんやりとでしたが、世の中にはこういう福祉の仕事もあるのか…」と思ったそうです。それも一つの巡り合わせ。たまたま父がその部署に配属されたから出逢ったのであって、その機会がなければ、柴田さんはデイサービスセンターを開設する運命にはならなかったでしょう。

秘書の仕事もやり甲斐のあるものでした。スケジュール管理や調整、外部との連絡、電話対応、文書作成。さらに来客対応、つきあいのある企業、団体トップとを繋ぐ対外的な企業イメージ（CI／コーポレート・アイディンティティ）づくりなど、重要な業務を担いました。

振り返れば、その時代に身につけた能力も決してムダではなかったようです。「そのうちに私は自分に疑問を投げかけてしまって…。自分に何が出来るのだろうか？福祉の仕事の方が自分を生かせるのではないかと」。そうして意を決し、7年勤めた会社に辞表を提出し、最初の資格「社会福祉士」を取得し福祉の世界へ転職を果たしました。30歳の決断の時でした。

その後、総合的に社会福祉施設を運営・展開する法人へ再就職。ソーシャルワーカーとして高齢者の相談業務にあたり、介護認定を受けていないいわゆる一般高齢者に対する足腰を鍛える体操や認知症予防のための体操、栄養改善や口腔機能向上のための講話などの介護予防事業に計8年間従事しました。

柴田さんは自分の身の回りに起きた現象、出逢ったことを偶然として捉え、受け流してしまうのではなく「必然＝縁があった」と受け止めるタイプの人です。だからこそ仕事を通して出逢ったことを自分の新たな目標として発見することができるのでしょう。まだ介護が必要な段階ではないけれど将来要介護の対象者になる可能性がある、いわゆる要支援の利用者との交流を通じて思いを深めます。「年齢と共に人間の身体機能は衰えてしまうけど、適切な対策を行えば、もっと身体機能の維持を図れるのでは。介護予防の取組みで高齢化を緩やかにすることができないだろうか」。あるいは、特別養護老人ホームに配属された時には、日常動作でほぼ全面的に介護が必要で、認知症を抱える要介護（3～5）の重度の人々と接し、ますます確信することに。「要支援と要介護の間を埋めるのが私の仕事だ」。高齢者自身がいつでも、そしていつまでも介護を必要としない〝元気な体づくりを目指す施設〟をつくろうと昨年起業を果たしました。

利用者全員を2台の車で送迎。集合後に血圧測定、体調判断、ストレッチ、脳トレ、指体操へと、分刻みでデイサービスが始まる。

この日行われたラダー・トレーニング（床に敷いた梯子のマス目を踏まないように歩く）。明るい笑顔でクリアすると全員で拍手。

「合同会社ファインサポートを設立し、入浴や食事提供はしない生活機能向上デイサービスとして〝たいむ〟を事業所として立ち上げました。職場環境はおかげさまでとても良くて、利用者様同士のつながり＝不思議な縁もあるのですよ。ここで数十年ぶりに知り合いに再会したとか、長くご商売をされてた方と当時その店のお客さんだった方が出逢ったり…。不思議ですけど、私はそういう縁のある人間社会が好きです。職員もそれぞれ自分の役割を考えていますし、みんな人柄重視で集まってくれた仲間たちです。

起業に関しては、当初何もかも自分で決めなくちゃ気が済まないところもあったのですが、今は利用者のみなさんと職員とのふれあいの中で施設のイメージが出来ていることに感謝しています」と言う柴田さんの視線は真っ直ぐ前を見ています。

「高齢者に対するイメージも大きく変わりました。一人ひとりの人生がとてもドラマチックなんですよ。90代の方が毎年ファイターズの沖縄キャンプに行かれたり、時間さえあればビデオで洋画を鑑賞し外国の映画俳優の名前も顔もほぼ記憶している方。英会話を続けている方など、みなさん目標を掲げて日々努力を重ねています。ちょっとやそっとじゃ太刀打ち出来なくて、むしろ私たちが毎日刺激を受けているほどなんですよ」。

ここを訪れるケアマネジャーや利用者の方には「〝たいむ〟はアットホームだね！」と言われます。その言葉が嬉しくて、さらに思いやりとぬくもりにあふれた施設づくりを柴田さんは目指しています。